

## 会 議 録

会議の名称	平成30年度第4回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成30年9月5日(水) 午後7時～9時
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	搦木道代議長、本間雄一副議長、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木真理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1 協議事項 ・ハイティーン世代の実態について  2 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

## 会 議 内 容 (要点記録)

### 1. 開 会

○議長あいさつ

### 2. 協議事項

#### 1) 前回会議について

【議長】「若者」をテーマにいろいろ話が出ており、10代～40代くらいまで、広く捉えられている現状があることが分かった。状況に応じて若者が区別されているようだが、この会議では10代後半に焦点を当てるということでよいか。

【委員】了承。

【議長】前回までの会議で、意欲の有無と帰属の有無ということで、若者の分類を行った。教育・福祉双方の視点を持ち合わせながら、ハイティーンについて考えていくことが望ましいのではという流れから、本日は子ども未来応援センターより、所長に来ていただいている。

#### 2) 子ども未来応援センターより

所長より、子ども未来応援センターの事業内容の説明を行い、夢つなぐ富士見プロジェクト（プラス）の中における、若者支援について、併せて説明を行った。

#### 3) 意見交換

【議長】地域を見ていて、気になることがあっても、どこに相談していいのかわからない時がある。市のどこかの部署で、何か行っているのだろうというのはわかって、それが市民にみえてきていない部分を感じる時がある。

【子ども未来】センターは相談窓口の最初であり、まずは連絡をいれてもらいたい。そこから、必要に応じて、関係各所に連絡をいれていくかたちを取っている。

【委員】例えば、川越市だと「子ども家庭課」というのがあるが、虐待などのケースを対応していたと記憶している。他にも、子ども〇〇課という形であるが、子どもの対応について、いろいろ課がわかれているところが、子ども未来応援センターは、一本化しているという認識でよいのか。

【子ども未来】まずは相談ということで、何でも連絡をいれてもらってよい。行政や市民団体などへ「つなぐ」ということに重点をおいて、対応している。

【委員】以前の会議で、ひきこもりの話が出たが、一旦離れてしまうと、きっかけがない限り、社会にでることは厳しいように感じる。

【子ども未来】ひきこもりだった方の実際の体験談の話を聞いたことがあるが、ひきこもりになる理由として、わかっている方もいるがその方の場合、わからない状態だったことから、理由を聞かないでもらいたいと話していた。ただ、高校への進路を考える時に「このままではまずい」と自分で意識したとのことだった。その方は、現在、「ひきこもり新聞」の編集長をしている。以前、自分がその新聞を読んで、勇気をもらったので、何か返したいとの思いが強くなったとのことだった。

【委員】きっかけは、とても大事だが、人それぞれ異なる。

【委員】学び直しを行おうと思っても、現実的にどの段階から行えばいいのかなど、

とても難しい側面もある。どのように支援を行っていくのかというのが、とても大事。

【委員】子ども未来応援センターで子ども食堂も関わっているときいているが、以前の会議の中で、子ども食堂に来た子どもたちが楽しい思いをして、いずれは運営に関わってくれるような循環ができると良いと会議ででた。

【子ども未来】そのような思いをもってやっているが、現在、低学年が多く、そうなるとなかなか手伝いというところまではできない側面がある。

今回は、事例を交えながら、様々な事象について意見交換を行った。次回は、ハイティーンの実態について、公共施設の在り方、活用の仕方なども視野に入れながら、協議を行っていく。

#### 次回会議日程

平成30年度第5回会議

日程：平成30年10月15日（月）午後7時～

場所：市役所 全員協議会室

### 3. 閉 会